



平成17年7月26日発行



北海道 国際理解教育研究協議会



会報 第61号



会長 池田 幸一



事務局長 後藤 宏



「地球市民として行動できる国際理解教育を」

北海道国際理解教育研究協議会
会長 池田 幸一
(札幌市立新陵東小学校長)

これまで3年間に渡り、本会の発展に尽くされ、素晴らしい功績を残された眞木孝輝前会長の後を、今年度から私が引き継ぐ事になりました。各地区の役員の皆様や会員の方々のご協力お力添えをいただき、本会の発展と北海道の国際理解教育の向上に努力していきたいと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

現在、デンマークに在住し風力発電の対日輸出に携わり、デンマークの環境・エネルギー政策について学ぶ研修センター「風のがっこう」を運営しているケンジ・ステファン・スズキ氏は、デンマーク人の多くは、社会や国作りを議論するとき必ず「デンマーク」と「地球」がキーワードになることから、デンマークが豊かな国を作った背景には、「共生社会に生きるための教育」があることに気づいたそうです。

そして、議論のキーワードの内容となる「デンマーク」の『社会の仕組み』や「地球」についての『地球全体の状況』は、学校の授業で教えられ、それをもとに授業で鍛えられた思考力が日常の行動に生かされ、現在の豊かな社会が作られてきていると思えるようになったと話しています。

自分の生活やとりまく環境、さらに外国との関わりを突き詰めていくと、地球と人間のつながり、様々な人とのつながりに行き着きます。私たちは、児童生徒が地球を意識しながら地球市民として変化に対応し、よりよく生きていくことができる態度や能力を授業で鍛え、デンマークのようにそれが日常の行動に生かされるよう、取り組みを進めることが大切であると考えます。

本年度は、第7次の研究成果をもとに、新たな研究主題を「自ら地球にひらき、未来を切り拓く児童生徒の育成」とし、第8次研究がスタートします。

11月11日(金)・12日(土)には、第26回北海道国際理解教育研究大会石狩大会が江別市で開催され、主題に迫る授業公開や各地の実践が交流されます。全道の会員や関心のある方など大勢の人が江別市に集い、江別から全道に向けて国際理解教育の大きなうねりを広げていくことができるよう願っております。

北海道国際理解教育研究協議会事業計画

1. 基本方針

21世紀を生きる北海道の子供たちに、国際社会に貢献できる日本人としての資質を育成する国際理解教育の在り方を探る。

- ・学校教育における国際理解教育の在り方を、主に授業を通して深める。
- ・新しい教育の流れの中で、国際理解教育の果たすべき役割を探る。
- ・各地区との交流を深め研究交流を推進し、その成果を各地区の国際理解教育に生かす。

2. 事業内容（教育研究団体として北海道の教育に貢献する）

- (1) 全道大会を開催し、研究成果を交流する。
- (2) 研究成果の交流のため、「研究集録」や「研究紀要」を発行する。
- (3) 「会報」を発行し、研究の成果や情報を交流する。
- (4) 地区との連携を密にし、組織を強化し、各地区の研究推進に協力する。
- (5) 派遣教員と帰国教員に対し、研修会を開催し、それぞれ支援する。
- (6) 国際理解教育に必要な各種資料を収集し、インターネットでの情報提供や交流を行う。

3. 今年度の重点

- (1) 第26回北海道国際理解教育研究大会 石狩大会の成功を図る。
 - ・教育研究団体として会員の資質向上と研究の深化を図る。
 - ・北海道の国際理解教育の向上に努める。
- (2) 地域に密着した各地区の研究の深化と交流を図る。
 - ・研究主題を共通の窓口としながら、各地区の独自性を発揮した研究を推進する。
 - ・地域、時代の要請を生かした研究を進め、会員の意識の向上を図る。
 - ・帰国教員の貴重な体験を地域の教育に生かす。
- (3) 総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を探る。
 - ・総合的な学習の時間における国際理解教育の在り方を積極的に実践し、地域に広げる。
- (4) 小学校英語についての取り組みを進める。
 - ・小学校英語活動の在り方を各地区で研究や研修をもとに実践を積み、研究大会などで交流を深めよりよい英語活動の進め方を探る。

【 役 員 名 簿 】

顧問 石田 省子（第6代会長）
" 山内 武道（第7代会長）
" 高橋 承造（第8代会長）
" 真木 孝輝（第9代会長）（札幌市立もみじ台西小学校長）

会長 池田 幸一（札幌市立新陵東小学校校長）

副会長	田中 信宏（士幌町立中央中学校長）	副会長	射守矢秀治（蘭越町立蘭越小学校長）
副会長	中村 恒司（苫小牧市立光洋中学校長）	副会長	松倉 康夫（旭川市立緑が丘小学校長）
副会長	辻口 徹（札幌市立藤の沢小学校長）	副会長	本間 秀昭（函館市立亀田中学校長）
副会長	中村 仁昭（羽幌町立焼尻中学校長）	副会長	（渡島地区未定）

理事	青山 信一（標津町立標津中学校長）	理事	豊田 收（乙部町立乙部中学校長）
理事	国兼 秀也（小清水町立止別小学校長）	理事	宮川 廣幸（豊富町立兜沼小中学校長）
理事	大津外志男（岩見沢市教育委員会指導室長）	理事	高野 英弥（釧路市立柏木小学校長）
理事	伊藤 和幸（江別市立第二小学校長）	理事	加賀 政治（小樽市立花園小学校長）
理事	齊藤 順一（日高町立日高小学校長）		

【事 務 局】

事務局長	後藤 宏（札幌市立南の沢小学校校長）	次 長	石塚 信彦（滝川市立東小学校教頭）
次 長	白石 邦彦（札幌市立平岡公園小学校教頭）	次 長	齋藤 吉文（札幌市立上野幌小学校教頭）
次 長	中村 淳（札幌市立駒岡小学校教頭）	次 長	澤田 崇（札幌市立幌北小学校教諭）
次 長	継田 昌博（札幌市立幌北小学校教頭）	次 長	佐野 聡恵（岩見沢市立北真小学校教諭）
次 長	小島 雅人（石狩市立石狩小学校教頭）		

庶務部長	横川 隆（札幌市立白石小学校教諭）	庶務副部長	吉田 英明（札幌市立手稲東中学校教諭）
会計部長	箭内 浩之（札幌市立真駒内曙小学校教諭）	会計副部長	川崎 真（札幌市立東山小学校教諭）
広報部長	古里 和雄（札幌市立手稲西小学校教諭）	広報副部長	岩村 鋭介（札幌市立藻岩南小学校教諭）
組織部長	廣島 直（札幌市立美しが丘緑小学校教諭）	組織副部長	福田 栄喜（札幌市立平岸小学校教諭）
組織部員	中原 英雄（釧路市立鳥取小学校教諭）		
研究部長	森 雅彦（札幌市立平岸小学校教諭）		
研究副部長	石原 和人（札幌市立元町小学校教諭）	研究副部長	小野 博史（札幌市立東山小学校教諭）
研究部員	井上 博文（札幌市立南が丘中学校教諭）	研究部員	向井 秀樹（旭川市立聖園中学校教諭）
研究部員	河井 義徳（幕別町立白人小学校教諭）	研究部員	菅原 敏明（北見市立小泉小学校教諭）
研究部員	荒川 浩一（教育大学付属釧路中学校教諭）	研究部員	傳法 大祐（室蘭市立鶴ヶ崎中学校教諭）

*今年度より各部の部員として各地区にお願いしていますが、まだ氏名報告がされていない地区もありますので今回は、氏名のあがっている方のみ記載しています。

外務省経済協力局長賞（特別賞）受賞



昨年度、第一回開発教育/国際理解教育コンクールに北海道国際理解教育研究協議会として応募し、「実践授業例部門」において外務省経済協力局長賞（特別賞）を受賞しました。

このコンクールは、授業において、子供たちと先生が楽しくコミュニケーションを取りながら、国際協力と国際理解の必要性について学び、今後の開発教育と国際理解教育の普及促進を図る目的で開催されたものです。

本研究協議会研究部が応募したものは、平成14年～16年に本研究協議会が、第七次研究として取り組んできた、そして全道大会等で授業公開や研究発表された小学校3年生から高等学校までの10の実践が対象になっています。本研究協議会では、「地球を見つめ、自分を見つめ、未来を切り拓く児童・生徒の育成」を第七次研究主題に掲げ、「教室を地域に、社会にそして地球に開いていながら、子供たちと様々な人とのかかわりを作り出していく。そこで、子供たちの身近な問題を解決する過程を通して自分と地球とのつながりを実感させる授業を実践する。」を学習のねらいとして実践研究を重ねてきました。全道の仲間が研究交流を重ねて大きな成果を上げてきた本研究協議会の実践が認められたことは、第7次研究の成果のすばらしさと共に、今年度からスタートした第8次研究に弾みをつけるひとつのきっかけにもなったことと思います。

A4サイズ60ページあまりにわたるこの実践発表は、下記のホームページで見ることができますので、是非ご覧下さい。

政府開発援助ODAホームページ

開発教育・国際理解教育コンクール

アドレス； <http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/contest/>

国際フォーラム

文部科学省が、昨年度から国際理解教育に推進にあたって全海研の会長をメンバーに加えた検討会を作り、今年度7月をめどに答申を行おうとしているのはご存知だろうか。(この広報が出るころには、公表されているかもしれない)

この報告の中で注目すべきことは、報告書の表題「初等中等教育における国際教育推進検討会報告～国際社会を生きる人材を育成するために～」に表現されているように、国際理解教育ではなく「国際教育」を目指すとしたことにあると思う。「国際教育」としたことについては、公表された議事録でも伺えるように若干の議論もあったようだが、あえて国際理解教育の推進ではなく国際教育の推進としたようである。

私は、この変更を肯定的に受け入れていきたいと考える。つまり、国際理解教育を他の国や異文化を理解する教育や単に体験や交流活動に留まっていたことを反省し、これからの教育では、子供たち一人一人が、地球的視野に立ち、主体的に行動する為の態度・能力の基礎を育成することが必要だと提案しているからである。「理解」ではなく「行動する」ことが必要だと主張しているのである。この主張は、本会が従来から実践してきたことであり、研究の方向性と合致するものとする。

また、この中では、国際教育にかかわる人材や資源の活用と連携のための支援体制を構築するために、海外経験を有する教員、特に在外施設派遣教員の経験や知識の発信も強く求め、学校現場での積極的なかかわりも求めていることにも注目すべきである。

文科省がこのように、国際理解教育の推進に方向性を示したことに、我々は、国際理解教育の推進の絶好の機会と捉え、積極的に受け入れるとともに、授業として発信していくことがより求められるといえよう。(詳しくは、文科省のホームページ参照を)

図書紹介

教育不信と教育依存の時代

著者紹介

1959年 広島県生まれ
教育社会学
東京大学大学院教育学研究科助教授

広田照幸 著
紀伊国屋書店

今は正に教育不信の時代である。全ての日本人が教育評論家だといってもよい。様々な状況が、教育問題と関係付けられながら語られている。だがそのほとんどは、「今の教育はダメだ」だから、「私が考える教育」を実施すれば「間違いない」主張しているものである。納得しながらも、それで本当の解決になると考えている方も多いとことだろう。

このような状況を著者はある意味、作者の理想の教育論のために「現実の教育」がいけにえになっていると述べ、本当の教育改革のためには非常な危険な状況であると指摘している。そして、教育の在り方の良いところを実感し、実践の中で広げていこうとする真面目な教師の姿は、「大胆な改革に踏み出さない小心者」と映り、教師は沈黙したまま、教育批判にさらされているとも述べている。この現状を打破する為に、著者は、「リアルで等身大の教育像」から出発し、慎重で知的な議論を尽くしていくことを提案している。そして、どのような視点を持つことが、教育論を「リアル」で「知的」なものへと高めてくれるのかを指摘している。

これからの教育の姿とは、教育は何をなすべきか、そして、個人と教育とのかかわりについて自分の教師としての歩みを省みながら考えさせてくれる本である。

(北海道国際理解教育研究協議会事務局次長 中村 淳)

会費納入のお願い

日頃より本会の活動につきまして、深いご理解とご支援をいただき誠にありがとうございます。

本会は皆様の会費によって運営されております。会費は全道大会の運営と研究推進、会の円滑な運営、推進のため、お手数でも滞りなく納入いただきますようお願い申し上げます。

なお、納入状況等につきましての照会は、会計筋内浩之までお願い申し上げます。

照会先

事務局会計 筋内 浩之（札幌市立真駒内曙小学校）

TEL 011-581-5291 FAX 011-581-6984

北海道国際理解教育研究協議会 年会費3,000円

郵便振り込みにてお願いいたします。（口座の名義は会計担当次長澤田です。）

振込先 澤田 崇 口座番号 02750-4-3409

通信欄には、氏名、支払い年度、おわかりでしたら会員番号もお書きいただくと幸いです。

ご意見・ご感想・情報をお寄せください

北海道国際理解教育研究協議会

E mail kokusai@hokkaido.777.ac

道内、国内、海外を問わず情報を事務局までお寄せください。また広報についてのご意見、ご感想もお待ちしております。

各地区における活動状況、実践報告、研究推進、各国の情報等を文書と画像も添付してお送りください。変換後、順次、広報に掲載して参ります。たくさんの情報をお待ちしております。

発行 北海道国際理解教育研究協議会広報部

会 長 池田 幸一（札幌市立新陵東小学校長）
事務局長 後藤 宏（札幌市立南の沢小学校長）
広報部長 古里 和雄（札幌市立手稲西小学校）

